



上林カチさん
(北浜町・79歳)

いつも笑って過ごすのが一番

★どんな仕事をしていましたか
25歳で嫁いでから主人を亡くすまで50年近く、一緒に浜の仕事をしています。昔は今のよう便利な道具は無く、朝から晩まで体を動かしていました。そのためか今まで病気になることがありません。

★趣味は何ですか
ことはありません。週に一度仲間が集まり、ちぎり絵を作って10年になります。同じような色でも少しずつ違った色紙を何種類も張ることで、絵に影や表情が出てきます。一枚完成させるのに1カ月ほどかかりますが、見た人が喜んでくれるのが楽しみなんです。★元気の秘けつは
老人クラブで歌ったり踊ったりすることです。いつも笑って楽しく過ごすのが一番ですね。

6月1日～7日は水道週間

町水道事業所では、安全で安心な水道水を供給するため、水道施設の計画的な整備、安定した経営を心掛けています。水道は皆さんの生活や経済活動を支えるライフライン。この機会に水の大切さを考えてみませんか。



春の叙勲

平成20年春の叙勲が4月29日に発表され、本町の佐々木俊夫さんが旭日中綬章、佐藤仁志さんが瑞宝双光章、藤原喬さんが瑞宝単光章を受章しました。3人の方々は長年にわたりそれぞれの分野で活躍され、その功績に光が当てられました。

旭日中綬章



地方自治功勞
佐々木俊夫さん
(大沢・77歳)

大沢の佐々木俊夫さん(77)が旭日中綬章を受章しました。佐々木さんは「わたしには過ぎた荣誉ですが、とても感激しています。これ以上名誉なことはありません」と受章の喜びを話しています。家業の漁業を継いだ佐々木さんは昭和54年、地域の振興のために政治の力が必要と感じ、県議会議員に立候補。初出馬から7回連続で当選し、昨年4月までの28年間にわたって議員を務めました。その間、

を歴任し、平成5年には議長を務めるなど地方自治の発展に大きく貢献。また、県議会教育問題対策議員連盟を立ち上げ、「いわて教育の日(毎年11月1日)」の制定に携わるなど、次世代を担う子供たちの教育にも力を注いできました。

佐々木さんは「内助の功にも感謝していますが、やはり町民の皆さんが応援してくれたからこそ、これまで議員を続けることが出来たと思っています。今回の勲章はわたし一人がいたただいたものではなく、山田町民みんなが受章したものです」と笑顔で話していました。

地方自治発展に力を尽くす

保護司として活動続け29年



更生保護功勞
佐藤仁志さん
(豊間根・73歳)

佐藤さんは「叙勲のことはまったく頭にありませんでしたので、本当にびっくりしましたね」と驚きを語っています。犯罪や非行に陥ってしまった人に対し、生活相談など社会復帰への手助けを目的に活動する保護司。豊間根中の教諭として勤めていた佐藤さんは昭和54年に保護司に委嘱され、以来29年にわたって罪を犯した人の更生支援に力を尽くしてきました。「保護司として『罪を憎んで人

を憎まず』の精神でこれまで活動してきましたが、今日まで続けてこられたのも先輩や同僚の支え、家族の協力があったことと、周囲の皆さんには本当に感謝しています。更生した方がその後結婚し、あいさつに来たときはこの仕事をやっていて良かったと感じます」と笑顔で話す佐藤さん。

現在は宮古地区保護司会の副会長を務め、山田町第一保育所長も務めている佐藤さん。「地域のため、また犯罪を予防するためにも、元気なうちは保護司の活動を続けていきたいですね」と意欲に燃えています。

瑞宝単光章



地方自治功勞
藤原喬さん
(山田・62歳)

山田の藤原喬さん(62)が、瑞宝単光章を受章しました。「このような勲章をいただけるなんて思ってもみないこと、いまだに信じられないですね」と驚きを話します。

昭和40年に県水産試験場の甲板員として採用された藤原さんは、漁業指導調査船の岩手丸と北上丸に乗船。水温や潮の流れを調査する海洋観測や水産物の資源調査などを担当し、航海士を経て平成10年には北上丸船長

14年には岩手丸船長となり、18年に退職されました。今回の叙勲は、

県職員として41年間にわたって地方自治の発展に尽力した功績が評価されたものです。「乗組員がけがをせず、元気で航海を終えられるのが何よりです。常に安全を心掛けて仕事をしてきました」と当時の振り返りを話します。津波注意報や気象警報などで出動して、家を空けることも多かったという藤原さん。「家庭を顧みない生活で、家族には苦労をかけたからこそ、仕事を続けることができたと思っています」とご家族への感謝の気持ちを話していました。

漁業指導調査船に乗り41年